

「課題解決×（旅＋暮らし）＝あたらしい関係」
～ かかわれるまち 邑南町 ～

島根県邑南町

令和4年2月15日

1.地域の概要

● 邑南町について

- 島根県の中央の山間にある、人口1万人、高齢化率45%の田舎町。
- 県内町村一の面積（419km²）を誇るが、森林がその86%を占め、自然と共生しながらまちをつくってきた。古代から近代まで、たたら製鉄や木炭製造などの森林資源を活かし、中国地方最大の大河「江の川」の港町としても栄えた。
- 高度経済成長以降、過疎化が急速に進行したものの、町民が営んできた豊かな食文化や伝統文化は今も色濃く受け継がれている。

● 地域の活力維持に向けた取り組み

- 2011（平成23）年より、町を挙げて「**日本一の子育て村構想**」や食と農に特化した町おこし「**A級グルメ構想**」を掲げ、移住者や観光入込客数の増加、起業の促進等に成果を上げてきた。
- 観光産業においては、「A級グルメ構想」のほか、県内屈指の売上を誇る「産直市みずほ」、ハーブを栽培・販売する「香木の森公園」、「ハンザケ自然館」などの観光資源を活かし、観光入込客数100万人/年の達成を目指してきたが、地域の担い手減少や観光客のニーズの変化などの背景から、2013（平成25）年の93万人をピークに減少傾向にある。



2.これまでの関係人口の取り組み

平成30年度

- ・ 廃線後の「三江線」跡地の活用×鉄道ファン

令和元年度

- ・ 空き家の再生×DIY愛好家

令和2年度

- ・ 「観光やめます 関係はじめます」を掲げた邑南町観光戦略
- ・ 新しい観光の学校（関係人口とともに地域を活性化する人材育成）

令和3年度

- ・ 新しい観光の学校 第2期
（関係人口とともに地域を活性化する人材育成）



「地域に根差し、住民が解決を望んでいる課題の設定」と
「課題に高い関心を持ち、関与を望む関係人口」の組み合わせに成功した。



このような成果を踏まえ、
「里山の景観」「暮らしの知恵」といった地域の価値を、
地域外の人々を巻き込みながら育てていくため
「観光やめます 関係はじめます」
を掲げた町観光戦略を策定した。

3.平成30年度「はすみファンと創る地域」事業

「はすみファンと創る地域」事業

2018年度 総務省「関係人口創出事業」
モデル事業に採択

地域の衰退に追い打ちをかける
JR三江線の廃線（2018年3月31日）



旧三江線の廃線跡地の活用



鉄道資産を活用した
実証実験の実施には
多くのマンパワーと知恵が必要。

3.平成30年度「はすみファンと創る地域」事業

旧三江線跡地の活用プロジェクト

「鉄道ファン」を関係人口として迎え入れ



地域住民と関係人口の協働で賑わい創出

「おおなんDIY木の学校」事業

2019年度 総務省「関係人口創出・拡大事業」
モデル事業に採択

増え続ける空き家の活用



空き家の活用に関心を持つ

「関係人口」を探す

→ **DIY愛好家**



昭和の風情を残した
立派な民家が多数
空き家になって放置

4.令和元年度「おおなんDIY木の学校」事業

空き家再生プロジェクト

「DIY愛好家」を関係人口として迎え入れ



課題設定（空き家活用） × 関心層（DIY愛好家）

→ 関係人口 → 地域再生

5.令和2年度、3年度「新しい観光の学校」事業

「新しい観光の学校」事業

2020年度 総務省「関係人口創出・拡大事業」
モデル事業に採択

関係人口の取り組みを
全町的な展開につなげる



関係人口を活かす
担い手育成



旧三江線跡地の活用や
DIYにとどまらない
関係人口の創出

5.令和2年度、3年度「新しい観光の学校」事業

「新しい観光の学校」プロジェクト

地域で活動するプレイヤー同士が学び合い、関係人口の迎え入れにつなげる



新しい観光の学校メンバー（左：1期生 右：2期生）

**「邑南町に関わりたい人」と「地域に暮らす人たち」が良きパートナーとなり、
ともに地域の課題解決に取り組む仕組みをつくる**

6.取り組みの継続

全事業
継続・発展中

廃線
×
鉄道ファン

空き家
×
DIY愛好家

新しい観光
の学校

邑南町と「つながりたい人」と、
邑南町で「活動している人」をつなげる仕組み